

ヒロシマ・ピース・センターだより

2023年

No.30



ヒロシマ・ピース・センターは、平和へのさまざまな願いを込めて、本年も「谷本清平和賞」の贈呈式を開催いたします。

第35回目の「谷本清平和賞」は、公益財団法人 広島平和文化センター理事長を2007年から2013年まで務められ、現在、NPO法人 Peace Culture Village 代表理事のステイブ・ブーン・ロイド・リーパー氏に決定しました。

リーパー氏は、外国人として初めて広島平和文化センター理事長に就任され、平和市長会議の活動や全米における原爆展の開催、国際交流・協力事業を指揮されるなど、広島から世界に向けて核兵器廃絶を訴える広範な活動を展開されました。現在も、アメリカと日本を行き来しながら、若者たちとともに平和について考える取り組みや平和に関する講演を各地で行い、平和活動を通じた国際交流の振興、とりわけ世界平和を訴え続けておられます。

また、外国人留学生による日本語の「世界平和弁論大会」は、ヒロシマで学ぶ若者たちが平和への思いを深め、世界中に発信継承されることを願って、国際平和の集いとして本年第32回目の大会を開催します。広島県内に留学中の高校生・大学生が出演し、ヒロシマで学んだことをとおして平和の大切さを発表します。

ヒロシマは被爆から今年で78年目を迎えました。5月にはG7広島サミットが開催され、各国の首脳が平和祈念館の視察や被爆者から証言を聞き、原爆被害の実相に触れました。

しかし、ロシアによるウクライナに対する軍事侵攻はすでに600日を超えました。ロシア大統領府は核兵器を搭載可能なミサイルの発射演習を行い、成功したと発表するなど核戦力を誇示しており、核軍縮への道は一段と険しくなっているといえます。10月にはパレスチナ自治区ガザを実効支配するイスラム組織ハマスとイスラエルの間で大規模な軍事衝突が発生し、多くの民間人が犠牲となっており、人道危機は深まるばかりです。

ヒロシマで学ぶ若者たちが、平和への思いを深め、世界中に発信継承され、核のない世界平和に向けた国際世論が高まることを願い、一日も早く「世界恒久平和」を迎えられることを祈念しています。

本財団は、これからも時代の要請に基づいた平和活動推進に、微力ながらも尽力していく所存です。皆様のご支援ご鞭撻をよろしくお願い致します。

理事長 鶴 衛

【本財団のおいたち】



財団創立者
谷本 清
(1909～1986)

本財団が創立された基本的精神は、原爆をうけた広島に生存者が尊い生命を犠牲にした人々を思い、世界人類に対して恒久平和を念願することこそ広島に課せられた責務であるという信念に基づいています。被爆直後、悲嘆にくれた広島に視察して被爆者を取材し、核兵器に対する憤りと被爆者への愛といたわりで綴ったアメリカ従軍記者ジョン・ハーシー氏による名著「ヒロシマ」によって、被爆地広島への関心は広がり、高まりをみせました。

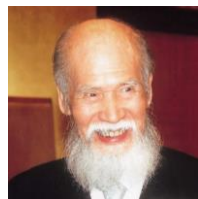
こうした時の1948年、谷本清氏（元：日本基督教団広島流川教会牧師）は、メソジスト教会ミッション・ボードの招きを受け、原爆による被爆の体験をもってアメリカを歴訪。15カ月の間31州、256都市、472団体において“被爆の惨状と平和の尊さ”を訴えました。

「ヒロシマ・ピース・センター」という名前は、この訴えに呼応してアメリカで生れ被爆地広島に継承され、広く世界平和の運動を推進する母体として1950（昭和25）年8月8日、財団法人として認可されました。谷本清氏は、本財団創立以来理事長を務め、再三にわたってアメリカに渡り、原爆乙女の治療をはじめ精神養子縁組等の事業を実現し、国内外で“恒久平和の実現と人類の福祉増進”を図ってきました。

【谷本清平和賞】と【世界平和弁論大会】

1986年に谷本清氏の後を受けた二代目理事長鶴襄氏（学校法人鶴学園創立者）は、谷本清氏の偉業を祈念し、恒久平和実現と原爆体験の風化を食い止めるために貢献した人（団体）を顕彰し、より一層平和構築への推進力となつていただくことを願い、「谷本清平和賞」を創設しました。1987年ノーマン・カズンズ氏の第1回受賞をはじめ、昨年の「川崎哲」氏の受賞まで33回の表彰をしてきました。

また、鶴襄氏は、若人たちが世界平和に対する関心を高め、国境を越えて平和実現のために手をつないでほしいとの願いから、1990年に第1回「世界平和弁論大会」を開催しました。こうした鶴襄氏の遺志は、谷本清平和賞と世界平和弁論大会を「国際平和の集い」として、本財団の基幹事業として今日まで受け継がれています。



谷本清平和賞
世界平和弁論大会
創設者
鶴 襄
(1915～2006)

【歴代理事長】

谷本	清	1950年～1986年（1950.8.8就任）
鶴	襄	1986年～2002年（1986.4.1就任）
橋本	榮一	2002年～2005年（2002.9.7就任）
鶴	衛	2005年～（2005.4.26就任）

公益財団法人ヒロシマ・ピース・センター

〒731-5193 広島市佐伯区三宅2丁目1の1
広島工業大学内
TEL (082) 921-4149
FAX (082) 921-6979

公益財団法人
ヒロシマ・ピース・センター

谷本清平和賞

第34回谷本清平和賞 受賞者 渡部 朋子 氏 (授与式 2022年11月13日)



【受賞理由】特定非営利活動法人 ANT-Hiroshima 理事長として、被爆地広島を拠点に、平和教育・被爆体験の継承・核兵器廃絶と恒久平和の訴えなど多彩な活動の先頭に立ってこられました。とりわけ被爆による白血病で亡くなった佐々木禎子さんを紹介する絵本を翻訳して世界各国に届けるプロジェクトは大きな反響を呼びました。広島で被爆の実相を伝え、核兵器廃絶と恒久平和を訴える数多くの活動を続けておられます。よって、谷本清平和賞の趣旨に則り顕彰することとなりました。

第33回谷本清平和賞 受賞者 川崎 哲 氏 (授与式 2021年11月14日)



【受賞理由】NGOピースボートによる「おりづるプロジェクト」や核兵器廃絶国際キャンペーン (ICAN) の活動を通じて広島や長崎の被爆者の証言を世界に発信してこられました。こうした取り組みの積み重ねが国際世論を動かし、核兵器禁止条約の成立と発効やICANのノーベル平和賞受賞にも寄与しました。全ての国が核兵器禁止条約に加わるよう現在も精力的に行動を続けておられます。よって、谷本清平和賞の趣旨に則り顕彰することとなりました。

第32回谷本清平和賞 受賞者 アーサー・ビナード 氏 (授与式 2020年11月8日)



【受賞理由】詩人絵本作家として常に物事の本質に近づきながら生命の尊さに向き合い日本語での制作や翻訳を続けられています。広島市へ移住された後は、ヒロシマに関する絵本や紙芝居など多くの作品を発表されました。教育現場や市民集会にも積極的に出向かれ、多彩な創作活動を通じて被爆体験の伝承や核時代に生きる意味を掘り下げ、核兵器の恐ろしさを説き恒久平和の実現を深く熱く訴え続けられています。よって、谷本清平和賞の趣旨に則り顕彰することとなりました。

谷本清平和賞の受賞者・団体

第1回 1987年	ノーマン・カズンズ氏	第18回 2006年	学校法人広島女学院
第2回 1988年	フロイト・シュモー氏	第19回 2007年	在韓被爆者渡日治療広島委員会
第3回 1990年	栗原貞子氏	第20回 2008年	高橋昭博氏
第4回 1991年	森瀧市郎氏	第21回 2009年	平野伸人氏
第5回 1992年	今堀誠二氏	第22回 2010年	夏の会
第6回 1994年	ジョン・ハーシー氏	第23回 2011年	坪井 直氏
第7回 1995年	ヒロシマを語る会	第24回 2012年	碓井静照氏
第8回 1996年	金 信煥氏	第25回 2013年	小倉桂子氏
第9回 1997年	村井志摩子氏	第26回 2014年	サーロー節子氏
第10回 1998年	江口 保氏	第27回 2015年	秋葉忠利氏
第11回 1999年	伊藤隆弘氏	第28回 2016年	ピーターソンひろみ氏
第12回 2000年	ワルト・フレンドシップ・センター	第29回 2017年	公益財団法人原爆の図丸木美術館
第13回 2001年	河本一郎氏	第30回 2018年	森瀧春子氏
第14回 2002年	中沢啓治氏	第31回 2019年	矢川光則氏
第15回 2003年	吉永小百合氏	第32回 2020年	アーサー・ビナード氏
第16回 2004年	平岡 敬氏	第33回 2021年	川崎 哲氏
第17回 2005年	新藤兼人氏	第34回 2022年	渡部朋子氏

日本語による世界平和弁論大会

第31回 日本語による世界平和弁論大会 (授与式 2022年11月13日)

最優秀賞受賞者 アグネ ピレサールさん

題 「『青と黄』の折り鶴」 広島中等教育学校 (エストニア出身)

【要旨】2022年2月24日、朝早く目が覚めて最初に耳にしたのは「ロシアがウクライナを侵略した」というニュースでした。その日はロシアからの独立記念日を祝う予定でしたが、驚きとショックで現実には起こった事とは理解できませんでした。街では多くの場所でウクライナ支援の活動が始まり、ロシア侵略により約10万人の難民がエストニアに住んでいます。私の中でウクライナ移民の援助や協力の気持ちが日増しに強くなりました。心の高ぶりのなか、留学が決まり広島にきました。ある朝、クラスメートが「青と黄色」の色紙でウクライナに向けた折り鶴を作っていました。その姿に感動し参加の意向を伝え、一緒に「青と黄色」の色紙で折り鶴を作成しました。折り鶴は生徒の総力により大きなウクライナ国旗や巨大なポスターとなりました。私は日本からウクライナの平和を願う行動ができたことで、心が満たされました。平和に関心を持ち続け、他の人の意見に耳を傾け心に寄り添う。このことが世界平和への道と考えます。



第30回 日本語による世界平和弁論大会 (授与式 2019年11月17日)

最優秀賞受賞者 カール ステファン カンテルスさん

題 「戦争難民—ふるさと」 広島市立広島中等教育学校 (スウェーデン出身)

【要旨】僕のひいおばあちゃんは、第2次世界大戦中に侵略されたエストニアから難民となってスウェーデンに移住として受け入れられました。ひいおばあちゃんは、スウェーデンにいつも感謝していましたが、スウェーデン語を覚えずエストニアの言葉話していて、ここはいつまでも故国にありました。自分の「ふるさと」を逃げださなくてよくなるように、地球の全ての場所に平和を築かないといけないのです。平和とは、自分が生まれたところ、育ったところ、大切な場所、大切なひと、その全てを守ることだと思います。



最優秀賞の受賞者

第1回 1990年	王 志松さん (中国)	第17回 2006年	ジャルワン・ティアンクンさん (タイ)
第2回 1991年	カン・ホシさん (インド)	第18回 2007年	エセジヤン・アビヤさん (ガブスタ)
第3回 1992年	アリン・チャワンライさん (マレーシア)	第19回 2008年	カンディバラス・リヤさん (スリランカ)
第4回 1993年	栄 勇さん (中国)	第20回 2009年	ルハダヤ・エドネ・ネットさん (モンゴル)
第5回 1994年	アン・セシルさん (フランス)	第21回 2010年	ヌルダナ・アティルワさん (ガブスタ)
第6回 1995年	アリン・チャム・チャイットさん (タイ)	第22回 2011年	アジバ・エ・アワナさん (ガブスタ)
第7回 1996年	ハリリア・オムスさん (ベトナム)	第23回 2012年	スマイルワ・マデ・ケンさん (ガブスタ)
第8回 1997年	フルット・フェイスさん (中国)	第24回 2013年	サラ・バ・初スさん (ドイツ)
第9回 1998年	アリン・マクマラさん (オーストラリア)	第25回 2014年	任 欣雨さん (中国)
第10回 1999年	劉 艶さん (中国)	第26回 2015年	ノバート・コリアさん (ドイツ)
第11回 2000年	リキ・ブトリさん (インドネシア)	第27回 2016年	ウナー・ウァー・ナニコさん (スロバキア)
第12回 2001年	ホアン・ベト・ロメント・サさん (コロンビア)	第28回 2017年	フランシスカ・レペさん (チリ)
第13回 2002年	朴 紅梅さん (中国)	第29回 2018年	ナヴァルチコヴァ・ベトラさん (スロバキア)
第14回 2003年	グー・スミスさん (アメリカ)	第30回 2019年	カール・ステファン・カンテルスさん (スウェーデン)
第15回 2004年	スガティエ・チャトルさん (タイ)	第31回 2022年	アグネ・ピレサールさん (エストニア)
第16回 2005年	任 麗潔さん (中国)		

※2020年、2021年は新型コロナウイルス感染症拡大のため中止